

ゆるやかに、つながり
ほどよく、むすばれる



2026年3月発行



桐生市移住支援フロント むすびすむ桐生

移住する決め手って何なのだろう？

環境なのか、
仕事なのか、
人なのか、

人生の中で実際に住める場所はそんなに多くないはず

何かのきっかけで土地に出会って

『ここで暮らしていく』

と選択した人たちが、この風景を創っている

桐生は山に囲まれた緑豊かな環境

繊維産地として知られる歴史

その背景をルーツとして育まれたまちの気風

それらが混ざり合って豊かな文化的生態系を築いている

まずはこの冊子で私たちのまち

桐生を少し知ってもらえたらと、

どこで住むことになっても

あなたの移住のヒントになればなと願ってます。

むすびすむ桐生 移住コーディネーター



いwasaki

地域おこし協力隊のサポート事業
キャンプ場運営

黒保根地区



小野みなみ

保育士
フリースクールスタッフ



小野ようすけ

農業支援事業
就労継続支援施設の
職業指導員

新里地区



まさこ

古民家カフェ「PLUSアンカー」店主
不動産業

桐生地区

まちなか

新里地区

黒保根地区



なち

民泊「TSURUMAU」オーナー
エキナカシェアショップ「オーライ」
運営代表

桐生地区

まちなか



さいとう

マップデザイナー
小さな本屋「ふやふや堂」店主

重伝建



大小

アパレルデザイナー
ファッションオープンアトリエ &
ボードゲームカフェ「ふふふ」店主

まちなか



タナカ

ローカルインフルエンサー
理学療法士

桐生地区

まちなか

この冊子について

桐生市では、「桐生市移住支援フロント むすびすむ桐生」という移住相談窓口を設置しています。
むすびすむ桐生には、先輩移住者の夫婦をはじめ、店舗開業者、アパレルデザイナー、不動産関係者など、多種多様な移住コーディネーターがいて、地域で活動しています。
私たち8人の移住コーディネーターが、移住のヒントや移住を考える際のポイントを紹介していきます。



移住を考えたときのポイント

僕自身も熊本からの移住者です。僕も経験しましたが、移住を考えるときの最初は“情報収集”からだと思います。ここで重要なのは、自分の中の優先順位をつくることです。すべてが理想にフィットすることは中々ないので、例えば、東京へのアクセス、気候、住居の立地、間取り、家賃など、どんな暮らしを優先するかで、候補になる地域は変わってきます。



ご家族で移住を考える方は、家族内の相談もとても重要です。家族内で話し合って、優先順位を決めていくことが遠回りのようで一番の近道になるかなと思います。
そして、思い立ったら行動に移す勢いが重要です。気になる地域や場所があったら、直接足を運んでください。暮らしをイメージしながら、現地の方と会話することがとても大切です。

移住のきっかけや決め手を聞いてみた

移住先の決定やきっかけは、みなさん様々です。結婚、就職、子どもの成長、物件更新などの節目もあれば、今の生活を変えたいと思い立つこともあると思います。桐生への移住者に、移住のきっかけや決め手を聞いてみました。



妊娠・出産を機に移住を考えるようになりました。桐生は地元だったので、何かあったときに親に頼れる環境があったこと、近くに自然があること。そして、「保育園に入れる」という安心感が一番の決め手になりました。
(30代・写真館運営)

当時廃業していた銭湯「一の湯」を見に行ったら、古い街並みの中での佇まいが素晴らしく一目ぼれしてしまいました。**この銭湯を復活させたい!**とチャレンジしたくて移住を決めました。
(50代・銭湯運営)

刺繍の仕事をしていた、**繊維産地である桐生**に、材料を買う店も外注さんも集中していたので、桐生への移住を考え始めました。工房として使うのに**理想の物件を見つけた**タイミングで移住を決めました。
(50代・刺繍工房運営)

コロナ禍で、「高い家賃を払って東京のオフィスをキープする意味とは何か?」を考えるようになりました。会社として、この流れをプラスにできる何かができないかを考える中で移転・移住をしました。
(30代・IT会社経営)

桐生を訪問したときに、色々な人と出会いました。みなさんとても親切で、まちの雰囲気もあわせて魅了されました。桐生の人はとても感性が高いのと、**まちに余白と可能性を感じて**、移住を決めました。
(30代・セレクトショップ運営)

桐生は、**まちも自然もどちらもあり、物価も東京より安い**。そして、桐生は**働くことと生活のバランスがとて** **よいと感じた**ことが決め手になりました。
(40代・カフェ運営)

移住者インタビューを
もっと読む▶▶▶



桐生市は どこにある？



移住のヒントになるデータ💡

家に関するデータ

住宅の1か月当たりの平均家賃

36,704円

※県内12市で1位(一番安い)

参考(東京23区):94,890円

総務省「住宅・土地統計調査」(令和5年)

持ち家率

73.3%

参考(東京23区):42.5%

総務省「国勢調査」(令和2年)

環境に関するデータ

夏の気候・冬の気候

夏の日中は、**全国最高気温**になることもあります。夜から朝にかけては若干過ごしやすくなります。冬は、北のエリアを除けば、氷点下になる日は少なく、雪もほとんど降りません。ただ、**群馬県名物「からっ風」のエリア**なので、赤城山方面からの風が強い口があります。部の高校生はからっ風に立ち向かって自転車通学しています。

災害について

群馬県は、**地震(震度4以上)の少なさ**

関東地方で第1位

※気象庁「震度データベース」(大正8年~令和7年)

群馬県は、地震以外にも台風などの被害も少なめです。

暮らしに関するデータ

下水道・都市ガスの普及

桐生市は、下水道や都市ガスも比較的普及しています。都市ガスが通ってない地域の方は、プロパンガスなどを、下水道が通っていない地域は、浄化槽を使用しています。

桐生市の人口

99,054人

世帯数 49,003世帯

令和8年2月末時点

保育所等待機児童数

0人

北関東で唯一

入園無料の動物園あり

※日本動物園水族館協会加盟(令和6年)

群馬県の物価

群馬県の物価は全国で一番安い。特に住居費は大幅に安いです。ただ車社会なので交通・通信費は若干高め。

※総務省「小売物価統計調査」(令和6年)「統計局家計調査」(令和5年)

JR桐生駅から吾妻山までの距離

1.5km

(徒歩で約20分)



桐生地区

山も川も公園も まちのほど近くに



桐生が岡遊園地にあるサイクルモノレールに乗ると桐生の市街地が一望できる

まちと自然のほど近さが魅力

盆地である桐生のまちはいろいろな山に囲まれているので、山や川などの自然に気軽に触れることができるのが魅力のひとつですね。鳴神山、根本山など本格的に楽しめる山もありますが、吾妻山はJR桐生駅からも近いところにあるので、少し早起きすれば通勤前に登ることもできます。また渡良瀬川や桐生川の土手沿いの道で散歩やランニング、サイクリングをする人も多いです。暮らしのほど近くに自然があるのは、とても幸せなことだと思います。



気軽に行ける子どもの遊び場

入園無料の動物園と遊園地があって、動物園にはライオンやレッサーパンダ、ペンギンもいるので子どもは大喜びです。天気の良い日は屋内遊戯場もあって助かります。山や川が近くにあるので、お散歩も楽しいですが、保育・教育の場でも自然環境を活用した取組がいっぱいあると感じています。最近では、デジタルクリエイティブ人材育成拠点の「tsukurun KIRYU」ができて、子どもが勝手に出かけてくれるので、助かるという話も聞きますね。



吾妻山は、子どもから大人まで気軽に登ることができる



動物園と遊園地には家族連れが多く訪れる

桐生地区への移住のヒント

織物のまちとして栄えた伝統と歴史のある小都市です。繊維産業や都市基盤もあるほどよい田舎暮らしが主なキーワード。自然環境を大事にしつつ、東京間のアクセスも考えておきたい方におすすめです。



森を散策しながら植物や昆虫などを観察できる「桐生自然観察の森」



課外教育プログラムの清流読書。桐生川の支流で涼しく読書ができる

レトロなまちなみに 新しさが重なる



江戸時代～昭和初期の建物が残る重要伝統的建造物群保存地区である本町1・2丁目をはじめ、古いまちなみが残るエリア。群馬大学や遊園地・動物園や美術館などもある。個性的なお店もたくさんある。

様々な世代の人が集まるアトリ兼ボードゲームカフェ【ふふふ】

人と心地よい距離感

東京から移住してきて、特に感じているのが、人との距離感がちょうどよいまちだということです。何か始めようとするときは声をかけてくれて、協力してくれるんですが、ほっといてほしいときはほっといてくれるように感じています。個人事業主や個人商店が多く、魅力的なお店や人が多いと思います。話し好きな人も多いので、お店の人と仲良くなりやすいです。新しいつながりができることで、何かと助け合える関係性が築けるまちだと思います。



古い建物に新しい息吹が

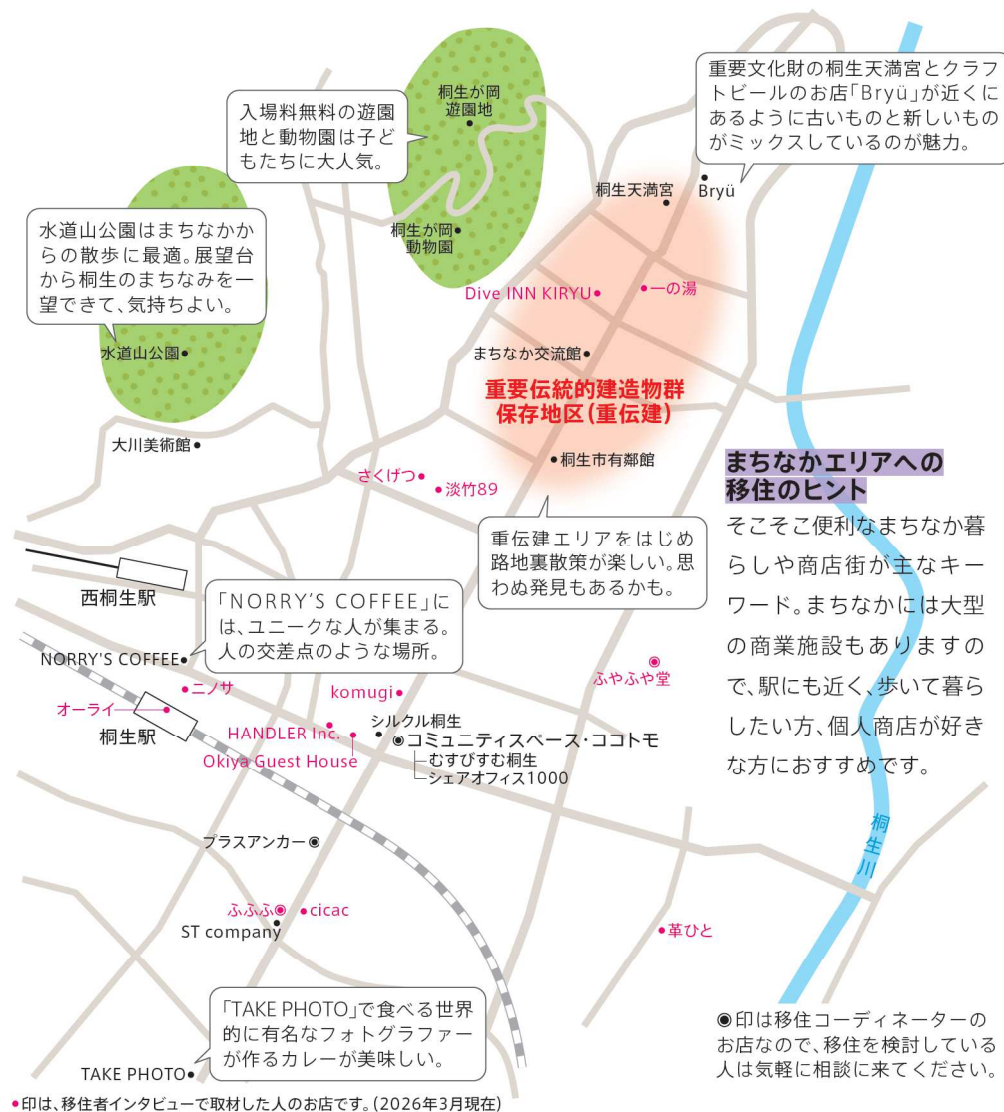
織物工場だったのこぎり屋根の物件をはじめ、いわゆる古民家や古い建物をリノベーションして新しいお店を始める移住者が増えてきています。中心市街地通り沿いの古い建物に、刺繍工房の「HANDLER Inc.」がオープンしたり、ベーグル専門店の「komugi」が移転してきたり、閉まっていたシャッターが上がって、通りがにぎやかになり、まちなかの魅力がより高まってきているのを感じています。ぜひ桐生でまち歩きを楽しんでください。



全国から通ってくる人も多い桐生の名店「st company kiryu」



「HANDLER Inc.」は古いビルをリノベーションして工房としている



桐生駅改札前の「オーライ」はチャレンジショップとして利用できる



ピカソなど有名な作家の作品が見られる「大川美術館」

新里地区

農村地域でほどよい田舎暮らしができる



新里地区への移住のヒント

農村暮らしや農業が主なキーワード。広大な自然環境を体感できる保育園が人気です。近隣のエリアに通勤される方にもおすすめです。

田んぼや畑が近くにあるので、美味しい農産物を食べることができる

農村地域ならではの魅力

田園風景のある暮らしを求める方には、

ほどよい田舎暮らしのできる新里エリアがおすすめです。中心部には商業施設がありますし、上毛電気鉄道も運行しています。私たちの住んでいる北部には別荘が立ち並んでいる場所もありますよ。窓から見える景色は、季節や時間で印象が変わるのでいつ見ても飽きないです。綺麗な星空を見たり、薪ストーブで暖まったり、飼っているヤギと散歩をしたりと生活を満喫しています。



新鮮な地元野菜・果物を食べられる

新里エリアではお米や酒米、キュウリやナス、ブドウにイチゴ、ナシなど様々な農産物が作られています。直売所以外でも、直接農家さんから買える場合もあります。

人気の施設もあります

新里には、人気の施設が2つあります。ひとつは、ぐんま昆虫の森。昆虫観察館の建物は、安藤忠雄の設計で建物を見るのも面白いです。もうひとつは、カリビアンビーチ。海みたいな温水プールで常夏気分をたのしめます！



夏には小川で水遊びができる



牧場を経営する若い人も



珍しい蝶や昆虫が見られる「ぐんま昆虫の森」



黒保根地区

大自然を全身で感じながら暮らせる



黒保根地区への移住のヒント

山村暮らしやアウトドアが主なキーワード。テレワーカーにもおすすめの市営の定住促進住宅。小中一貫校の黒保根学園で少人数教育に魅力を感じる方にもおすすめです。

大自然の中をわたらせ渓谷鐵道が突き抜ける

山村地域ならではの魅力

魅力はなんといっても圧倒的な自然です。山々と一体になって暮らしていることを常と感じられます。鹿や猪などももちろんいますが、自然と一緒に暮らしていると実感します。川上のきれいな水を使って作られたお米や農産物は本当に美味しいです。有機野菜を育てている方もいますね。ご近所の方から野菜をおすそ分けしてもらえることもあり、ありがたいです。清流では蛭も見ることができます。季節の違いを肌で感じられることも魅力だと思います。



アウトドア好きにはたまらない

キャンプ場や温泉施設があり、渓流釣り、サバイバルゲームのできる場所もあるので、アウトドアで遊びに来る人やバイカーも多いです。そうした趣味を持つ方が移住するケースもあります。また、スキー場に近いところに住みたいという方が、雪がきはしたくないからといって、黒保根地区に移住されたというケースもあります。わたらせ渓谷鐵道の運行があって、国道122号も通っているので、便利とまでは言えませんが、実は乗り継げば、都会にもアクセスできる山村暮らしができます。



田んぼの真ん中にある小中一貫校「黒保根学園」



テレワーカー家族にも選ばれた定住促進住宅



キャンプ場でアウトドア体験もできる

みんなが楽しみにしていること



天満宮古民具骨董市
関東三大骨董市の一つ。会場の天満宮境内には古布や着物、古民具、アンティーク雑貨など、幅広い品が並ぶ。毎月第一土曜日開催(11月は七五三のため開催日が変更になる場合も。1月は成人の日で開催)。



桐生買場紗綾市
繊維製品のほか、ソースカツ丼や焼きまんじゅう、お団子などの食べ物、日用雑貨のお店が並ぶ青空市。毎月第一土曜日開催(1月は成人の日で開催、8月はお休みの場合もあり)。会場は、天満宮近くの四辻の露臺。

1月

桐生市上毛かるた大会



群馬県民おなじみの郷土かるた「上毛かるた」。地域の子どもの会の子供達による市大会が行われ、勝ち上がると県大会(実質世界大会)に出場することができます。

2月

堀マラソン大会



70回を越える歴史ある市民マラソン大会。10月を過ぎ2月に近づいてくると、街中を走る人がだんだん増えてきます。参加賞のTシャツもお楽しみの一つ。

5月6月

清流に舞う螢



5月中旬～6月下旬にかけて、各地域の清流のほとり、手を伸ばせば触れられるくらいの至近距離で螢を鑑賞することができます。

8月

桐生八木節まつり



8月の第一金曜～日曜にかけて行われる桐生八木節まつりには、桐生市の人口の5倍もの人が集まる。新里地区と黒保根地区のまつりでは、花火も上がります。

10月11月

ファッションウィーク



各所で数多くのイベントが開催されます。クラシックカーフェスティバルから繊維産地桐生を感じられるイベントまで、毎週おでかけが楽しめます。

11月

桐生えびす講



関東で唯一の本社直系の西宮神社で行われる「えびす講」。11月19日・20日に商売繁盛、家内安全を祈願しに多くの人が参詣に訪れます。

桐生市移住支援フロント むすびすむ桐生

桐生市への移住に興味を持った方はこちらをご覧ください。
まち歩きや古民家リノベイベントなども実施しています。

ポータル
サイト

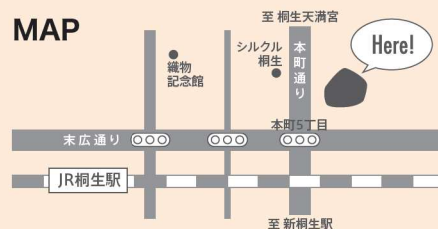


Instagram



開設時間:10:00～17:00 休業日:年末年始
TEL : 050-3529-6573
MAIL : musubisumu@kiryu-iju.jp

MAP



〒376-0031 群馬県桐生市本町5丁目51番地
東武桐生ビル1階cocotomo内

桐生市への移住を考えている方へ

むすびすむ桐生では、

この冊子に登場した移住コーディネーターのほかにも、

経歴や職種、得意分野の異なる様々なコーディネーターがいて、

移住に関する相談をお受けしています。

ひとのこと、暮らしのこと、まちのこと

むすびすむ桐生でご相談をお待ちしています。

